2026年10月21日
T.Kobayashi

佐倉市の地名の歴史・由来を探る
その 2：佐倉市北部の地名

佐倉市は、元は印旛郡佐倉町だった。印旛郡は、応神天皇の時代に「印波（いにわ）国造」が設置され、そのあとは末裔がこの地に影響力を残していた。
現在の佐倉市の町名には「昔」が残っているものが多いが、特に北部の町名（27）の中には、「干拓」と付く町名が約三分の一を占め、地形の特異性からできた地名も少なくない。
様々な歴史を臭わせる佐倉の地名、第二弾　北部の地名を眺めてみる。

●青菅（あおすげ）：https://yahoo.jp/NbxHvJ
山万ユーカリが丘線の北側の小竹（おたけ）川の右岸。江戸時代には下総國印旛郡青菅村だった。明治22年に井野村・井野町・先崎村・上座村・小竹村・下志津村・上志津村と合併して志津村となり、字地名になった。昭和29年に佐倉市になった。
菅（すげ）はカヤツリグサの一種で笠・蓑などの材料になった。荒地だったのかもしれない。

●飯田（いいだ）：https://yahoo.jp/PonG33
京成佐倉駅の北側に隣接する海抜10m ほどの岡のような所で、北端にある海抜27m の高台が飯田台で、その北側の沼に面した所が飯田干拓である。飯田という地名は文字通り、米作地帯だったと思われる。現在は、飯田の南部 25%ほどの面積はゴルフ場（佐倉 CC）。

●飯田干拓（いいだかんたく）：飯田の項参照 https://yahoo.jp/ZTmWNj
印旛沼中央排水路の南岸の干拓地で、海抜 2～3mの農地で居住者はいない。
対岸は印西市の平賀干拓。

●飯田台（いいだだい）：飯田の項参照 https://yahoo.jp/zhMEjQ

●飯野（いいの）：https://yahoo.jp/X3hnjA
印旛郡飯野村だったが、明治5年に飯野町として分村した。（「飯野町」の項参照）
鹿島川の河口の北側の海抜 20m前後の高台で、南面は鹿島川に沿った谷津になっている。
台地の中央部に、佐倉草ぶえの丘や佐倉市民の森がある。

●飯野干拓（いいのかんたく）：https://yahoo.jp/s4MFxB
鹿島川河口北部の飯野町の湖岸の干拓地。海抜3mの農地で、居住者はいない。

●飯野町（いいのまち）：https://yahoo.jp/na-uRK
印旛郡飯野村だったが、文久3年（1863年）に幕府の命令により佐倉藩の江戸詰め藩士の引き揚げが行われた際、村の一部が屋敷地として分与された。この地域が明治5年に飯野町として分村した。
印旛沼に面した「印旛手賀自然公園」の海抜20m ほどの小山の上に飯野城跡がある。
土塁などの遺構から想定すると、戦国時代のものと思われるが、詳細は不明とのこと。
師戸城・先崎城など対岸の城が一望できる立地になっている

●稲荷台（いなりだい）：https://yahoo.jp/XxRBTC
京成臼井駅の南西に線路に沿って広がる町。地名の由来となったと思われる稲荷神社は、北側の佐倉市臼井に建っている。神社がある小山には、城があったとする情報もある。
また、晩年をこの地で過ごした雷電の石碑がある。

●井野（いの）： https://yahoo.jp/6B4D9a

小竹川の二つの支流に挟まれた海抜25m 前後の台地。台地の窪みの至る所に湧水があったことが地名の起源（井のある野原）に繋がっていると考えられる。元は井野村と言った。
成田街道の北側にある「井野清水」は、佐倉城の八代目城主だった大久保加賀守が茶の湯の水として愛用していたので、「加賀清水」の別名を持つ。成田街道を往来する人々の喉を潤し、街道沿いに茶屋もあった。

●井野町（いのまち）： https://yahoo.jp/X-u5TY

幕末に、佐倉藩の江戸詰め藩士の引き揚げに際し、井野村の新田（成田街道以南）が払い下げられて井野町が生まれた。現在は飛び地になっているが、経緯は不明。

●岩名（いわな）： https://yahoo.jp/Q2yCNU

元は印旛郡岩名村だった。明治22年に周辺10ケ村が合併して内郷村となったが、
昭和12年に佐倉町に統合。千葉一族の家臣一覧表に「岩名」という名前があるので、関係しているかも知れないが詳細は不明。

●印南（いんなん）： https://yahoo.jp/xBuQPf

鹿島川西岸の農業地帯で、鹿島川を挟んで対岸（東側）に佐倉城を望む。小学校があるが、町の人口は4名だけ。単純に「印旛沼の南」という意味か？

●臼井田（うすいだ）：https://yahoo.jp/xn2C78

京成本線で下り電車に乗り、臼井駅を発車すると左側に広がる平坦地が臼井田。
西の端は小竹川河口で、東の端は鹿島川の河口までの東西に広がる湖岸の平地。

●臼井田干拓（うすいだかんたく）： https://yahoo.jp/UTXoME

臼井田の北側に臼井田干拓が細く東西に広がる。北側が印旛沼。干拓の歴史を感じる地形・地名で、このパターンは湖岸の随所に見られる。

●臼井台（うすいだい）： https://yahoo.jp/ZXLFhS

京成本線臼井駅の北西に広がる高台で、海抜10m～25mの起伏があるところ。
臼井台の北側に八幡台がある。臼井台の一部が宅地開発されて八幡台となったようである。

●臼井台干拓（うすいだいかんたく）： https://yahoo.jp/vMVSJB

臼井台干拓は、臼井台とは隣接していない。間に八幡台という住宅地が開発されたことによると思われる。この町の人口はゼロ。

●大佐倉（おおざくら）： https://yahoo.jp/n2aHkZ

大佐倉村だったが、明治22年に九ケ村と合併して内郷村となり、昭和12年に佐倉町に合流した。享禄元年(1528)に本佐倉城主の千葉勝胤が創建した曹洞宗常歳山勝胤寺が大佐倉駅の北側にある。南東側（酒々井町本佐倉）には本佐倉城跡がある。
佐倉の歴史を遡ると、佐倉城がある佐倉町よりも、こっちが本物・本流であるという意地から付けられた村名という説があるが、真偽は不明。

●大佐倉干拓（おおざくらかんたく）： https://yahoo.jp/5nVFnn

大佐倉の北側に位置し、印旛沼を干拓してできた町。東端には海抜0.7m の三角点がある。

●小竹（おだけ）： https://yahoo.jp/UFaf7U

小竹川の左岸の台地の先端にある。千葉氏の家臣小竹五郎高胤が、明徳年間（1390年頃）に臼井氏の元で臼井城の支城としてこの地に城を構えた。

●小竹干拓（おだけかんたく）： https://yahoo.jp/6i2BHr

小竹川河口の西岸の干拓地。

●角来（かくらい）： https://yahoo.jp/oqyMQP

印旛郡角来村だったが、昭和29年に臼井村・江原村などと共に臼井村になった。

京成本線の下り電車が佐倉駅に入る前に渡る鹿島川の左岸に広がる小山で、ピークには海抜25.5m の三角点がある。鹿島川の対岸には佐倉城がある。

臨済宗妙心寺派の圓通寺がある。創建時期は不詳だが、1300年代の開山とのこと。

●鹿島干拓（かしまかんたく）： https://yahoo.jp/QD3mLo

鹿島川河口の右岸にできた干拓地。海抜 3.5m前後の水田地帯になっている。

●下根（しもね）： https://yahoo.jp/8T-PTf

鹿島干拓の東隣に位置する。印旛郡下根村だったが、一部が切り離されて下根町となった。

一般的には、尾根や高台の麓（付け根）に付くことが多い地名である。

（「下根町」の項参照）

●下根町（しもねまち）： https://yahoo.jp/SBpeWL

印旛郡下根村だったが、文久3年（1863年）に幕府の命令により佐倉藩の江戸詰め藩士の引き揚げが行われた際、村の一部が屋敷地として分与された。この地域が明治5年に下根町として分村した。

●上座（じょうざ）： https://yahoo.jp/vBW7Zq

手繰川の西岸の台地。元は印旛郡上座村と言った。地名の由来は調べてみたがわからなかった。一般的には上位の席を「上座（かみざ）」と言うが、茶の湯では、「上座（じょうざ）」とも言うらしいので、この筋から生まれた地名だろうか、それとも何かの当て字だろうか。

●土浮（つちうき）： https://yahoo.jp/PL_u-N3

名前を聞いただけで怖くなるような地名である。印旛沼が「への字」にカーブしている先端に位置する。元は印旛郡土浮村と言った。京成佐倉駅あたりから北に伸びる舌状台地の北端で、海抜25～30m の高さ。小山の天辺で「土が浮く」ということは、崩落が起きる地形だったのだろうか。対岸の瀬戸（現在の印西市瀬戸）に渡る渡し舟があった。

●土浮干拓（つちうきかんたく）： https://yahoo.jp/zg_sjE

土浮村の湖岸のエリアが干拓されて農地になったが、さほどの面積ではないように見える。

●西ユーカリが丘（にしゆうかりがおか）： https://yahoo.jp/N5NC2k

山万ユーカリが丘線の西側に開発された新しい町（旧地名＝井野）。

●萩山新田（はぎやましんでん）： https://yahoo.jp/wy2W92

元は飯野村だったが、新田開発されてできた。中央排水路と鹿島川に挟まれた台地で、岩名運動公園の北側に位置している。

●萩山新田干拓（はぎやましんでんかんたく）： https://yahoo.jp/PGet_4

萩山新田の北側にできた干拓地。干拓地は、印旛沼中央排水路を前にした農地。

●八幡台（はちまんだい）： https://yahoo.jp/wc2ipH

臼井台の中に開発された住宅地に八幡台と名が付いた。臼井の総鎮守である八幡社から町の名が付いた。臼井八幡社は、暦応元年（1338年）に臼井興胤によって創建された。

臼井興胤が足利尊氏について九州を転戦していた時、菊池武時の軍勢と戦うにあたり宇佐八幡宮に祈念したところ大勝したので、自らの領地に宇佐八幡を勧請して社を祀った。

祭神は誉田別命（ほんだわけのみこと：応神天皇）

●先崎（まっさき）： https://yahoo.jp/oRB7jz

印旛郡先崎村だった。明治22年に志津村に属した志津村は。昭和29年に佐倉市になった。

大きな台地の先端で、地形由来の地名であると言える。古代には海の入り江に飛び出した小さな半島の先端だった、と考えると味わい深い。台地の先端の細く突き出した地形を見ると「先崎」とはよく言ったものだと納得できる。

先崎の北側に印旛沼が新川に水を落とす口がある。

●先崎干拓（まっさきかんたく）：https://yahoo.jp/QF52pE

先崎の北側の干拓地で、現在は新川南岸の農地になっている。

●南臼井台（みなみうすいだい）：https://yahoo.jp/UCDZff

手繰川右岸の台地（臼井台）の一部が宅地開発されて、南臼井台になった。

●宮ノ台（みやのだい）：https://yahoo.jp/qpfSpg

山万ユーカリが丘線の西側の台地に開発された住宅地。開発前は佐倉市井野に属す所だった。南端に宮ノ台神社（天満宮）があることから生まれた町名と考えられる。

●宮前（みやまえ）：https://yahoo.jp/qo_dzF

京成電鉄が京成佐倉駅前に宅地開発した所。

宮前という町の中央部にある「岩名麻賀多神社」がある。神社があることから「宮前」の名が付いたと考えられる。麻賀多神社は旧印旛郡下を中心に18社あるが、この他の地域には存在しない。鏑木町にある麻賀多神社は、佐倉藩の総鎮守になっている。また、延喜式にも記載があることから、歴史的にはかなり古い時代から存在する神社であることは確かである。

●山崎（やまのさき）：https://yahoo.jp/qb9giB

京成佐倉駅の北側の台地から西側（鹿島川側）に突き出した所で、まさしく「山の崎」。

曹洞宗天桂山隆祥寺は、千葉勝胤の開基で、天文19年（1550年）創建。

●ユーカリが丘（ゆうかりがおか）：https://yahoo.jp/PYEfbK

不動産会社の山万が開発したニュータウンで、ユーカリが丘・南ユーカリが丘・西ユーカリが丘・宮ノ台など中心とする町。その中の一部で、ユーカリが丘1丁目～6丁目がある。

「殺菌作用や空気の清浄作用があり、環境にやさしい」という「ユーカリ」を、「自然環境と調和する都市の象徴」として名付けた。

以上

＊関連情報

佐倉市の地名の歴史・由来を探る その1：佐倉市中部の地名

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura01.pdf

佐倉市の地名の歴史・由来を探る その3：佐倉市南部の地名

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura03.pdf

佐倉の町はこんな町 ＜佐倉市はこうして生まれた＞

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura00.pdf